

『身近な人が認知症になったら・・・』 寸劇を取り入れ、より深く知識を深めました。

令和4年11月14日に生活支援ボランティア養成講座を開催。家族や身近にいる人が「あれ？いつもと違う」と感じ取った際の対応、相談先などについて、身近な場面を寸劇で再現しながら、第2地域包括支援センター高谷センター長にアドバイスを頂きました。



【シーン①】

認知症状 ★サロンの予定(約束)忘れ
★ゴミ捨て間違い



サロンの予定も
ゴミ捨ても、私は
間違えることは
ありません

《アドバイス》

家事など今まで出来ているけど、約束したことも忘れてしまうOさん。

- ・認知症の初期には、直近のことを記憶しづらくなりますが、何もかもできなくなるわけではなく、以前からしている複雑なこともできることがあります。
- ・認知症の発見は、ちょっとした違和感に気づくことから始まります。違和感を感じたら見逃さず、早期に受診しましょう。
- ・認知症は、病気で誰にも起こる可能性があります。認知症になっても、生活の工夫や介護で穏やかに生活することができます。



【シーン②】

認知症状 ★物取られ妄想 ★片付けた場所を忘れる
★数分前の事も思い出せない

《アドバイス》



物取られ妄想のあるOさん。

- ・物とられ妄想は、認知症の初期から中期に多くあらわれる周辺症状の一つです。自分が無くしてしまった不安や焦り、自信の喪失などが要因として考えられます。
- ・泥棒扱いをされるのは、辛いですが、まずは、肯定も否定もせずに「盗まれたと思って心配しているのですね」などと共感し、落ち着いて話を聞き、一緒に探しましょう。
- ・興奮している場合には、「トイレに行ってきます。すぐに戻ります」など必ず理由を伝えて席を離れたり、話題をかえてみることでおさまることもあります。

【シーン③】

認知症状 ★道に迷う

- ★息子を小学生だと思い込んでいる。
(現在の風貌を見てもわからない)
- ★今いる場所が分からない
- ★子供を迎えにいくという駅が遠く離れた市町村を指す

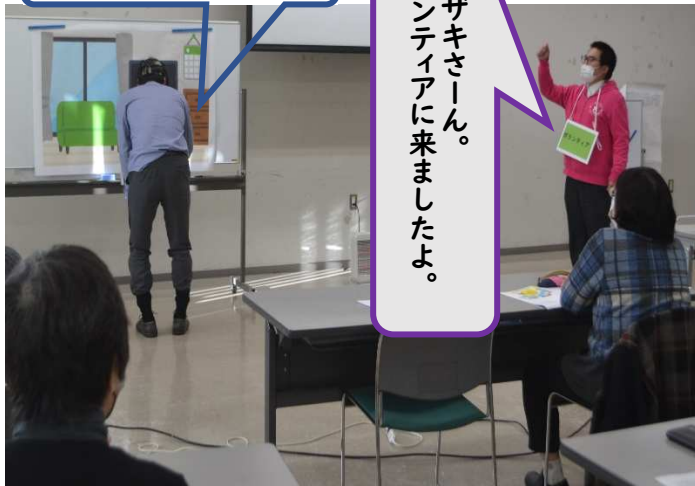


《アドバイス》

道に迷っている様子のOさん。

- ・記憶力や判断力の低下により自分がどこにいるのか、何をしようとしていたのかがわからなくなり、行方不明になり命を落とす方もいます。あなたの気づきが命を救います。
- ・迷っているのでは?と心配に感じる方がいたら、周りの安全を確認し、そっと近づいて視野に入ってから優しく、3つのない「驚かせない」「急がせない」「自尊心をきずつけない」を心得に声をかけましょう。
- ・近くの交番や警察署へ連絡をすると、その方の保護へと繋がられるかもしれません。見かけた時の様子や服装などを伝えましょう。

頼んでない。しらん。



【高齢者の相談窓口のご案内】

★第1地域包括支援センター

(北野・平岡地区)

電話:888-1717

★第2地域包括支援センター

(清田、清田中央・里美・美しが丘地区)

電話:887-5588



地域包括支援センター職員の皆さま、ありがとうございました。今回、初めて包括&社協職員コラボで劇団(King&Princess)を結成し寸劇を行いました。皆さまのお知り合いなどで、「是非、会館でやって欲しい!」などのご希望がございましたら、出張で行いますので興味のある方は、清田区社会福祉協議会までご連絡下さい!!

認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で、安心して地域で暮らし続けられるために、皆さまも認知症について理解を深めていきませんか。